LL教材に映画を利用することについて

——THE SOUND OF MUSIC の場合——

鈴　木　典　子

映画を楽しみながら英語を学ぶ——一寸うますぎる話のようだが，映画をＬＬで教材として用いることの意義について今や多くの人の認めるところである。

どのような意義があるか。

いろいろ意見もあるとおもうが，一応次ぎのように要約してみた。

1. 教材用に作製されたものでなく，本物の英語を聞かすことができる。
2. 興味をそそるため，学習者は熱心に勉強する。
3. 表情，動作，態度など言語以外の情報を通じて言語表現の本当の意味を理解させることができる。
4. ２ヶ国語放送番組を見ようとする意欲を起こさせる切っ掛けとなる。
5. 英語を学ぶだけにとどまらず，映画を通して人生の意味を考えさせることができる。

どんな映画がいいか。

まず対象となる学生（当短大２年生）の英語力を考慮に入れ，映画選択の条件として次のことを考えてみた。

1. 内容，筋のはこびが学生の興味を引き，且つ，教室でみるのにふさわしいものであること。
2. 話されている英語が訛りの強いものでないこと。
3. 使われている英語が難しすぎないこと。
   a. 一つの sentence が長すぎないこと。
   b. Vocabulary があまりむつかしくないこと。
   c. 早口すぎないこと。
4. 日常使える expression がなるべく沢山出てくること。
5. 映画の長さが適当であること。

私はここ数年，ミュージカル映画の THE SOUND OF MUSIC を当短大の LLII でとりあげてきた。この映画はかなり古いが，時代を超えて見る人の心をうつ。主人公のマリアが，自分の

年令に近いこともあって，彼女の生き方に共感を覚える学生も多い。また可愛い子供たちがでてくるのも魅力のひとつであろう。中で歌われる歌も分かりやすく感動的である。話されている英語は所々早くて難しいところもあるが，子供達の会話は分かりやすい。長さに関しては残念ながら少し長すぎるが上記の1，2，4及び3の半分位の条件は充たしていると思う。ここで注意したいのは，たとえ易しいようでも映画の英語は生の英語になれていない学生には理解しにくい部分がかなりあるということである。そこで理解を促するようにいかに教えるべきかという，教える側の操作とか工夫が最も大切なポイントとなる。

どのような操作と工夫をこらせばよいか。

聞き取りを助ける手段として一番効果的なのは，これから聞かせる部分のあらすじを前以て何らかの形で与えることである。その部分の英語での要約があればそれを読ませたり聞かせたりするのもよい。次に効果的なのは，あらかじめ内容を理解する助けになるような設問を与えてから，その部分を何度も見せ，設問にこたえさせることである。また英語が自然のスピードで話される時，音がいろいろ変化する（連結，同化，脱落など）がその原則をおしえることもたいせつである。New vocabulary を説明してやるのもたすけになる。ここでは THE SOUND OF MUSIC を例にとってどのような教え方が考えられるかを実践例をまじえて説明してみようと思う。

どのような設問が工夫できるか。

A．大意を把握させる問題。

1。Wh-question で質問し，内容を聞き取る手助けとする。

例えば，マリアが修道院長に呼び出されて言い訳しているところで次ぎのような設問をする。

1. Where was Maria brought up ?
2. What led Maria to the Abbey ?
3. When Maria was a child, what did she do ?
4. What is the most important lesson Maria has learned there ?
5. According to R. Mother, what seems to be the will of God ?
6. What does R. Mother ask Maria to be ?
7. How many children does she have to take care ?

これらの設問をビデオを見る前に目を通させると，学生はこれから見る場面の内容をある程度予測することができる。ただ漫然と聞くのでなく，与えられた問いを頭に入れたうえで聞くという事は聞き取るうえで大いに助けとなる。

2。聞かせた内容について True or False で選ばせる。例えば，Frau Schmidt がマリアの部屋

に洋服の生地を持ってきた場面では次のような設問をする。

Listen to the conversation between Maria and Frau Schmidt and mark these sentences true (T) or false (F).

1. (　　) Maria wants more material for herself.
2. (　　) Maria wants to make some play clothes for the children.
3. (　　) The Captain wants nothing that reminds of his wife since she died.
4. (　　) Maria doesn't think new drapes are necessary.
5. (　　) The new drapes have not been ordered yet.
6. (　　) Frau Schmidt thinks the Captain is going to stay in Vienna for a month.
7. (　　) The Captain is thinking of marrying the woman.

しかしこれは当てずっぽうに答えを選べるので本当に聞き取れたかどうか分からない。そこで何故 true なのか，また false の時は，どうならば true となるかとたずねると本当にわかったかどうかが分かる。分からない学生が多い時は問題ごとにその問いのポイントとなっている部分を繰り返しきかせる。それでもまだ納得いかぬ学生が多いときは，文字情報にたよる。すなわちその部分の script をみせて，またきかせる。

3。次にやはり大意をとらせる問題だが，次のように正しい答えを選ばせる設問も工夫できる。次の例は食堂でマリアが松ぼっくりの上に座って大騒ぎするところ。

Watch the scene and choose the right answers.

1. Maria jumps up from the chair because she finds (a pine cone on it, a frog on it).
2. They are going to eat without (giving grace, washing hands).
3. Maria wants to thank the children for their precious gift which means (a frog, a pine cone).
4. They begin to cry because (they feel sorry as Maria is so good to them, they are not hungry).
5. Rolf brings (a telegram, a letter) to (the Captain, Liesl).

B．細部の聞き取りに慣れさせる問題。

1。単語をブランクにして生徒に聞き取らせる所謂 Fill in the blanks は誰でもが試みるところであるが，聞き取りが上手に出来るためには vocabulary が豊富であるという事（熟語もふくめて）と，もうひとつは連結（liaison），同化（assimilation），脱落（elision）等の変化音を正確に

聞き取る事が出来ると云う事の両方が必要である。そこで Fill in the blanks の問題を作る時も，その事を考慮して作る必要がある。ここでは初めは，あまり難しくして学習意欲を無くさせてもいけないと思って，割合い聞き取り易いところの，しかも，ポイントになる単語（名詞，動詞，形容詞等 content words）をブランクにした。子供たちとの会話はその意味でこの問題の作りやすい箇所である。

MARIA : At ease ! Well, now that there's just us, will you please tell me all your (　　) again and (　　) (　　) you are ?

LIESL : I'm Liesl. I'm (　　) and I don't (　　) a (g　　).

MARIA : Well, I'm glad you (　　) me, Liesl, we'll just be good (　　).

FRIEDRICH : I'm Friedrich. I'm (　　). I'm (im　　)

MARIA : Really ? (　　) told you (　　), Friedrich ?

FRIEDRICH : Fräulein Josephine, (　　) governesses (　　).

LOUISA : I'm Brigitta.

MARIA : You. . . um, did'n t tell me how old (　　) (　　) Louisa ?

BRIGITTA : I'm Brigitta. She is Louisa. She is (　　) years old. And you're (　　). I'm ten. And I think your (　　) is the (u　　) one I ever (　　).

初めのうちは学生にとって難しそうな単語のブランクにはその初めの文字だけヒントとして示しておくこともできる。学生は1，2度ビデオを見たのち，各自のブースで予め録音したテープをわかるまで聞くという作業をする。

もうひとつの Fill in the blanks のやり方は前述のように assimilated sound 等の変化音を中心にブランクを作っていくという方法である。本来，一年の時にこのような音声学の基礎的なことは，学んでいるはずだが理論としてわかっていても映画ではまさに生の英語を実際に聞きとらねばならないのでなかなかたいへんである。次の Rolf と Liesl の会話では assimilated sound だけをブランクにしてみた例である。

ROLF : Yes, of course. I've (missed you), Liesl.

LIESL : You have ? How much ?

ROLF : So much that I even thought of sending you a telegram just so I would be able to deliver it here.

LIESL : Oh, that's a lovely thought. Why (don't you) ? Right now.

ROLF : But I'm here.

LIESL : Please Rolf. Send me a telegram. I'll start it for you. Dear Liesl.

ROLF : Dear Liesl, I'd like to be able to tell you how I feel (about you).

Assimilationはここにある [t]＋[j]＝[tʃ] のほか [d]＋[j]＝[dʒ]

例：MARIA : You didn't tell me how old you are.

MARIA : How in the world did you climb up here? など頻繁にでてくる。その他の変化音もこのようにまとめて問題作成することが望ましいが，一ケ所に集中しているわけではないので，content word の Fill in the blanks を作る時にそれらの変化音のブランクを混ぜて作り，その都度，音の変化について説明してやれば学生は次第に慣れてきて聞き取れるようになると思う。

2。つぎに試みたのは，key words だけを与えておいて，sentence を組み立てさせる練習である。次の例は子供達のパペットショウのあとでの会話を聞かせてのちの問題。

Watch the scene and make sentences using the following key words.

1. (really, very, I, much, impressed)
2. (no, I, good, very, nun, make)
3. (there, anything, is)
4. (keep, can, really, puppet show, we)
5. (shall, hear, next, who, we,)
6. (told, that, long, ago, good, I, you)
7. (public, not, children)
8. (first, Father, party)

これも学生の作業は前問と同じであるが全体のどこにそれぞれ問題があるかを聞き取るのに時間がかかるらしく非常にてまどる。またそこだけを取り出して聞かせても reduced した部分はききとりにくいので成功率は低い。その上この問題をやる場合ある程度 sentence を記憶する必要があるので Fill in the blanks より学生にとってむつかしいようだ。少し親切にして，それぞれの問題の後にぬけている word の数をしるしてやるのもいい。例えば，子供達が修道院を尋ねる場面での問題。

1. (inquiring, understand, Maria, you, I) ＋3
2. (tell, we, over, will, here, you, please) ＋2
3. (we, talk, all, her, want, do) ＋3

細部の聞き取りにこだわってあまり時間を取ることは賢明でないとも思われるが，繰り返し聞いてこのような問題をやっていくうちにその sentence を正しい rhythm と intonation で暗唱する事になるという効果を期待できる。

C．もうひとつの試みは，せりふのなかに日常使われる易しい会話があった場合それに相当する英語を dialog のなかから探しださせる問題である。例えば次のように問題をあたえる。

Watch the scene and write the following sentences in English with the same expressions used in the dialogs.

1。お父さん今度はどの位行ってるの？

2。もう席を立ってもいいですか？

3。いらんお節介やくな。

全体の中から与えられた sentence を正確に聞き取るという練習になると同時に，すぐ使える表現なので speaking にも役立つ。

授業のすすめ方。

第1回目はこの映画のストーリーを少し説明し期待を持たせる。また，歴史的背景などの解説をする。

(1) 設問用紙をくばる。

設問の与え方は先ず上で説明したような大意を把握させる問題をあたえ，つぎに細かい聞き取りの問題を与えるのがいい。一場面につきたくさんの問題をやらせるのは学生の耳の訓練になるのはたしかだが，非常に時間がかかるので，大意把握に関してはビデオを見せた後，口頭でやるのも良いと思う。その場合 speaking の練習にもなる。その場合もみせる前に内容理解に役立つような質問を用意して配っておけば理想的である。

(2) New words の説明をする。(設問用紙の一番上にタイプしておく)

(3) まず設問に目を通させ，この日教える場面 (Abbey の中で sister 達がマリアを探すところ) を2回みせる。

(4) 設問に答えさせる。設問に答えさせる時，各自のブースで個別にマイペースでさせるのが原則であるが，時間のない時とか，ビデオを見なければ答えられない問いのときは一斉にやらせる。

(5) 生徒を指名して答えさせる。

(6) ビデオをみせて，納得させ，最後にその場面の script を配って，分かりにくかった箇所を解説する。時間があればもう一度見せる。

(7) 次のクラスでやる場面に関する設問用紙を配る。(new words を調べてくる事を期待して)

(8) この日やった箇所について，次のクラスで Hearing Test をする事を予告しておわる。

第2回目以降は

(1) 先ず Hearing Test。前回やったところのテープを流し，ある sentence でテープをとめ，

その sentence の意味を書かせる。(テープはもう一度繰り返しきかせる) 大体3ないし4問だす。学生は非常によく復習してくる。Hearing Test は必ず次のクラスまでに採点して返し，模範解答を学生を指名して発表させる。ほとんど毎回テストしたが，正解率は80パーセントあった。毎回全問正解の学生もかなり居る。このテストについて学生に意見を聞いてみたら面白いから何度でも聞く気になるとの事。興味は最高の学習の motivation なり，と今更ながら感動する。

(2) 質問用紙は前回配ってあるので，new words は学生を指名して答えさせる。

(3) この日学習する場面をビデオで2回みせた後。各自問題をやらせる。以下，第1回目と同じ。

どんな映画でも映画は場面によっては，早すぎたり，また内容的に難解過ぎるところもある。その場合は文字情報にたより予め script を渡し，講読の授業のように調べてこさせ，クラスで発表させた後でビデオをみせる。(Baroness が Captain をたずね湖の畔で二人で語り会う場面をこのようにして学習させた)

期末テストについて。

期末テストとしては，ここ毎年，せりふを聞かせ，誰が誰にどういう場面で云ったものかを答えさせるという Identification Test[1] をさせている。これは学生が準備のために何回もテープをきくという点で大変有効である。毎時間に Hearing Test をしなかった時のこのテストの正解率は65%だった (1986年) が今回は80%あった。これは毎回の Hearing Test の賜とおもわれる。Identification Test のサンプルは次ぎの通り。せりふを1回流す場合と2回の場合が考えられるが，当短大では2回ながしている。

*テープを聞いて，誰が (Speaking)，誰に (Spoken)，何処で (Place) 話したせりふかを下の表に記号で記入しなさい。

CHARACTERS				PLACE
RM	R. Mother	L	Liesl	1. In the Abbey
M	Maria	Boy	Any boys	2. In Maria's room
S	Sister	G	Any girls (ex. Liesl)	3. In the living room
C	Captain	F	Franz	4. At the entrance
B	Baroness	Sch	Schmidt	5. At the hallway
Max	Max	Ch	Children	6. In the dining room
R	Rolf	Maid	Maid	7. In front of the lake
				8. In the car

	Speaking		Spoken	Place		Speaking		Spoken	Place
1.		——		(　　)	6.		——		(　　)
2.		——		(　　)	7.		——		(　　)
3.		——		(　　)	8.		——		(　　)
4.		——		(　　)	9.		——		(　　)
5.		——		(　　)	10.		——		(　　)

このように印刷された答案用紙に，学生はテープから流れてくるせりふをきいて誰が，誰に，どの場面で話したせりふかを記号で答えていくのである。実際には40問から50問だしている。

この他のテストとしてはやはりせりふを２回ずつ流し，その意味をかかせるのを15問，その他 Fill in the blanks, key words から sentence をつくるのをそれぞれ10問と５問だした。Identification Test を含めての平均点は83点（２クラスで62名）だった。テスト問題はかなり難しかった割りにはよくできたとおもう。学生は映画の面白さにつられてよく勉強したのであろう。

今後の課題

今後やってみたいと思うことは，映画の各場面についてやさしい英語で要約を準備しその場面を見せる前にきかせられたらいいと思う。また，要約したものを Fill in the blanks にして，各場面を見たり聞いたりした後でやらせるのもいい大意把握の練習になると思う。これについては，後期の授業で少し試みてみたが，学生の反応も良かった。（二つ程，例を示す）

地方長官になった Zeller が Max と子供たちが Festival のリハーサルから出て来た所で話す場面を見せた後。

1. Zeller has just come from the house of (　　).
2. Zeller is complaining because the Captain is not flying (　　).
3. Zeller put the (　　) on the Captain' s house.
4. The housekeeper told Zeller that he could find (　　) here.
5. The Captain is on his (　　) trip.
6. Zeller does not believe that the Captain has not (　　) with his (　　) in over a (　　).

次は，Captain と Maria がハネムーンから帰って来た場面をみせた後，

The Captain and Maria came home from their (　　). The children were so excited. Maria said she had missed (　　) the children(　　). They wento the (　　) to find the souveniors. The Captain was not happy about the Festival. He

still did not approve of his (　　) singing in the (p　　). Max explained how the (C　　) had been enchanted. Maria suggested to him to have them sing just (o　　). But the Captain said "Absolustely (　　)."

今後はなるべく多くの場面について，このような問題を作ることが出来ればと思っている。

THE SOUND OF MUSIC はかなり長いので，全部終らせようと思うとどうしてもヒヤリングの訓練が中心になってしまうが，もう少し短い映画をゆっくり時間をかけてやってみたい。せりふを練習させてアフレコで録音させたりすれば，学生の興味もさらに深まるであろう。

CHILDRE NOF A LESSER GOD のようなせりふのゆっくりした映画を学生と一緒に transcribe しながら学ぶのも楽しいと思う。また，文字情報の提供方法として，キャプションビデオの利用も工夫してみたい。これは音声と同時に字幕スーパーとなって文字があらわれるが，静止させると文字が消えてしまうので，ビデオ編集機をつかって字幕スーパーつきの画像を編集しておけば，必要に応じて文字を静止させることができる。もう一つ考えられることは，一回の授業時間内（90分）にみられる長さの映画を選び，先ず第一回目の授業で最後までみせ，以後，聞き取りやすい場面とか，学生の興味を引く場面とか，大切な場面とかを各学期の授業数の分だけ選び，exercise を作製して指導する。飛ばした場面はキャプションビデオでみせられれば理想的だが，それが無理ならさっと見せてあらすじを説明して次にすすむ。こうすれば，一学期に一本の割で映画が学べる。

註(1)　東京大学鈴木博教授の考案したものである。

参考文献　＊高山一郎「英語の授業における映画，テレビドラマの活用」東京大学言語文化センター紀要6号。

＊鈴木　博「語学教育におけるビデオ活用法」神奈川大学外国語研究センター「語学研究」10号。